

清流

題字：芳野 充

令和3年7月30日

第55号

発行所 加来不動産(株)
発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

ゆったりと構え、まわりに安心を与える

わたしには毎月楽しみであり、かつ程よい緊張感を味わう時間があります。それは、わたしが人生の師としてあおぐ、素心学塾塾長の池田繁美先生とお会いするときです。

池田先生は素心学塾塾長という立場でもありますが、現役の経営コンサルタント、税理士、池田ビジネススクール学院長であり、代表取締役でもあります。また、新型コロナウイルス蔓延前までは、各機関からの依頼をうけて全国各地で新任の校長先生や教頭先生たち、あるいは大手企業の幹部研修の一環として、徳育の大切さを説かれておりました。

毎月、池田先生には弊社の財務をみていただき、相談役として面談をしていただいています。寸暇を惜しむほどの忙しさのなかにある池田先生に毎月お会いするたびに感じることは、ゆったりとした品のある立居振舞に柔和な表情。また、こちらの話をじっくりと聴いてくださるもの柔らかさ、落ち着いてひと言ひと言をかみ締めながら話される姿に、何ともいえない安心感につつまれます。

品性豊かにするための「二十の徳目」の十二番目は、「鷹揚」です。「鷹揚」とは、ゆったりとして、こせこせしない態度のことです。

わたしの日常をふり返ると、「鷹揚」とはかけ離れた行動が随所で見られます。社内では携帯電話の音声をスピーカーにし、両手がかかる状態で会話をしながらパソコンのキーボードをたたく姿。業務が立て込んでくると、せまい事務所の間をバタバタと慌ただしく動きまわり、スタッフに「あれを準備してくれ」「それをもってきてくれ」と矢継ぎ早に指示を出す姿。家庭では、わたしが大好きな登山の準備をする際には、うれしさの衝動を抑えもせずに、部屋トリピングを行ったり来たりせわしなく道具をそろえる姿。あるいは「一石二鳥！」とばかりに携帯電話でユーチューブをみながら、筆ペン字の練習をする姿。こうやって自分の行動を改めて文字にしてみると、なんとも慌ただしく品性の低いわたしの姿に、思わず顔を赤らめてしまいます。

「鷹揚」とは、ゆったりとして、こせこせしない態度のこと。コロナ禍で世の中のごきも一段とはやくなつたように感じる今だからこそ、心おだやかに目の前のことを一つ一つ丁寧におこなう。また普段からゆったりと構え、まわりに安心を与えることが大切だと思ふ今日このごろ。いまのわたしの行動が品性豊かな行動になっていくのか、すこし自分を突きはなして冷静に確認し、改善していききたいと思ひます。

加来 寛

